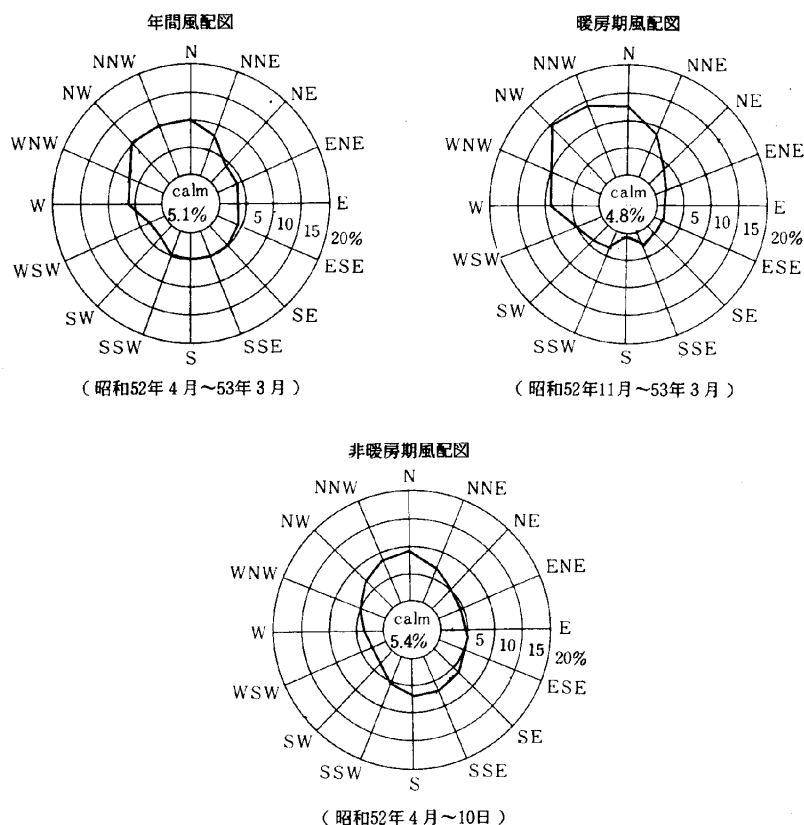


## (2) 気象環境

昭和52年度における一般環境大気測定局での気象データを解析した結果をみると、県内における風速は全体的に $1.0\sim 3.0\text{m/sec}$ の範囲の頻度が多く、全体の48.7%を占めている。また、風向の頻度は、4月から10月までの非暖房期には特に昼間時に南東風成分が24.5%と多く、11月から3月までの暖房期には北西風成分が36.9%と多くなっている。山岳地帯に近い測定局では、その地形から風速が $0.3\text{m/sec}$ 未満である静穏(calm)の場合が多く出現する場所(鶯沢局20.4%)や山風等の影響から風向の定まらない場所(笹岳局)があり平野部と比べると、風の特徴において差異が認められる。



## (3) 環境濃度

昭和52年度における二酸化硫黄、二酸化窒素の環境濃度をメッシュ別に推定した結果をみると、二酸化硫黄の濃度分布は仙台都市圏、石巻圏が高く、これらの周辺の圏域では低い値となっている。また、各市町村圏とも都市部で高く、それ以外の地域ではバックグラウンド濃度とほぼ同じレベルの低い濃度となっている。

二酸化窒素の濃

が、自動車排出ガ

メッシュ別の全

は $0.003\text{ ppm}$ とな

なお、別に添付

は、昭和52年度に

## 2. 将来予測

### (1) 発生源

昭和65年度にお

よると、県全域で

出量は、昭和52年

となり、県全域の

昭和52年度に比較

るものと予測され

度より減少するもの

物質別	
発生源別	t/
工場・事業場	33.2
民生	
自動車	
船舶	
計	33.2

広域市町村圏別

きい。硫黄酸化物

のと予測される。